

八尾市 非核・平和のあゆみ

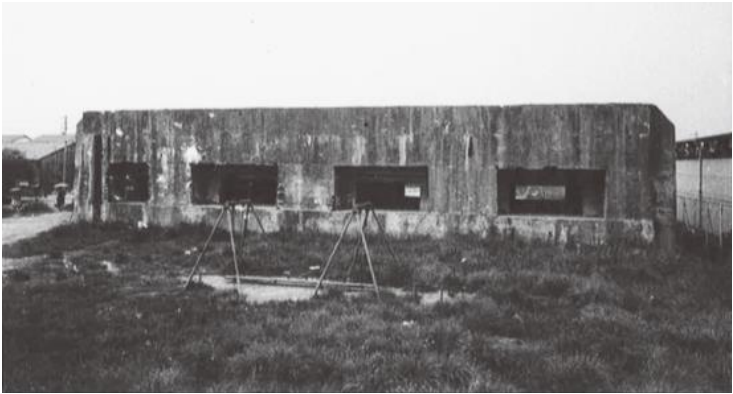
1983 (昭和58年度)	●八尾市非核・平和都市宣言（10月4日） 平和であることは、市民生活を守るうえでの前提です。その平和への願いとたゆまぬ努力の誓いとして、非核・平和都市宣言を行いました。それ以来、平和を守り、尊ぶ心を育てていくため八尾市では、さまざまな平和への取り組みを行っています。																																																														
1985 (昭和60年度)	●平和講演会はじまる（平成9年まで実施 延べ9,050名参加） 市民の皆さん一人ひとりに、日々の生活の中で、平和を身近なものとして考えていただくために平和講演会を開催 <table><tr><th>回</th><th>年度</th><th>講師</th><th>テーマ</th></tr><tr><td>1</td><td>1985</td><td>山田 浩</td><td>平和と若者の未来</td></tr><tr><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">1986</td><td>藤本 義一</td><td>人間を考える</td></tr><tr><td>岸 賢治</td><td>（報告）広島市平和祈念式典に参加して</td></tr><tr><td>3</td><td>1987</td><td>大江 健三郎</td><td>人間らしいものをつくるー人権・平和・文化ー</td></tr><tr><td>4</td><td>1988</td><td>ジェームス三木</td><td>ドラマと人間</td></tr><tr><td>5</td><td>1989</td><td>イーデス・ハンソン</td><td>いま平和と国際化を考える</td></tr><tr><td>6</td><td>1990</td><td>灰谷 健次郎</td><td>いのちの優しさ</td></tr></table> <table><tr><th>回</th><th>年度</th><th>講師</th><th>テーマ</th></tr><tr><td>7</td><td>1991</td><td>亀井 一成</td><td>育て、生きること</td></tr><tr><td>8</td><td>1992</td><td>山本 コウタロー</td><td>僕のピース・メッセージ</td></tr><tr><td>9</td><td>1993</td><td>福岡 政行</td><td>世界の中の日本 平和への貢献</td></tr><tr><td>10</td><td>1994</td><td>平岩 弓枝</td><td>生きるということ</td></tr><tr><td>11</td><td>1995</td><td>中野 良子</td><td>愛と平和の心を世界に</td></tr><tr><td>12</td><td>1996</td><td>津本 陽</td><td>戦国時代と平和</td></tr><tr><td>13</td><td>1997</td><td>浜村 淳</td><td>人・街・夢</td></tr></table>	回	年度	講師	テーマ	1	1985	山田 浩	平和と若者の未来	2	1986	藤本 義一	人間を考える	岸 賢治	（報告）広島市平和祈念式典に参加して	3	1987	大江 健三郎	人間らしいものをつくるー人権・平和・文化ー	4	1988	ジェームス三木	ドラマと人間	5	1989	イーデス・ハンソン	いま平和と国際化を考える	6	1990	灰谷 健次郎	いのちの優しさ	回	年度	講師	テーマ	7	1991	亀井 一成	育て、生きること	8	1992	山本 コウタロー	僕のピース・メッセージ	9	1993	福岡 政行	世界の中の日本 平和への貢献	10	1994	平岩 弓枝	生きるということ	11	1995	中野 良子	愛と平和の心を世界に	12	1996	津本 陽	戦国時代と平和	13	1997	浜村 淳	人・街・夢
回	年度	講師	テーマ																																																												
1	1985	山田 浩	平和と若者の未来																																																												
2	1986	藤本 義一	人間を考える																																																												
		岸 賢治	（報告）広島市平和祈念式典に参加して																																																												
3	1987	大江 健三郎	人間らしいものをつくるー人権・平和・文化ー																																																												
4	1988	ジェームス三木	ドラマと人間																																																												
5	1989	イーデス・ハンソン	いま平和と国際化を考える																																																												
6	1990	灰谷 健次郎	いのちの優しさ																																																												
回	年度	講師	テーマ																																																												
7	1991	亀井 一成	育て、生きること																																																												
8	1992	山本 コウタロー	僕のピース・メッセージ																																																												
9	1993	福岡 政行	世界の中の日本 平和への貢献																																																												
10	1994	平岩 弓枝	生きるということ																																																												
11	1995	中野 良子	愛と平和の心を世界に																																																												
12	1996	津本 陽	戦国時代と平和																																																												
13	1997	浜村 淳	人・街・夢																																																												
1986 (昭和61年度)	●日本非核宣言自治体協議会に加盟（4月1日） 日本非核宣言自治体協議会は、人間らしく生活できる真の平和実現に寄与するため、全国の自治体に核兵器の廃絶、平和宣言を呼びかけるとともに、自治体間の協力体制を確立することを目的として活動しています。 ●平和大使バスツアー（平成14年まで実施 延べ212名参加） 原爆死没者慰霊式・平和祈念式典に小中学生を含む市民が参加																																																														
1988 (昭和63年度)	●非核・平和都市宣言の看板を設置 （市役所本館正面ロータリー及び各出張所など市内15ヶ所） 『核なくし みんなでつくろう 平和な世界』 『非核・平和宣言都市 八尾市』																																																														
1994 (平成6年度)	●平和モニュメント『光の道しるべ』を設置（本町1-1 市役所前庭） 八尾市の平和のシンボルとして、夢と希望を育む心、そして未来を創造する若い力と強い意志が、平和と繁栄を願う「光の道しるべ」となることを願って、市役所庁舎前に設置。 作品名『光の道しるべ』 作 者 山本成男氏（市民投票により決定） 高さ:7.9メートル 材質:ステンレス 設置:平成6年3月 「人々の平和への想い」を象徴し、未来へのメッセージを託すため、手と手の重なりが、「人と人との和」となり、輝く未来に向け伸びゆくさまをイメージしています。																																																														



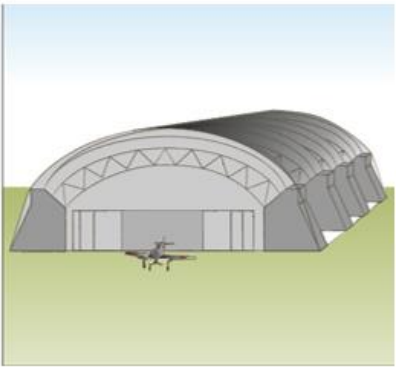
1996 (平成8年度)	●戦争の傷あとと銘板を設置（宮町1－4） 戦後50周年事業 1938 年に開校した阪神飛行学校は、戦時色が濃くなるにつれ大正飛行場として拡張されました。穴太の交差点から北東に新家東口付近までの 1,500mは予備滑走路として建設されたといわれ、まっすぐに伸びた道路は今もその面影を残しています。 
1998 (平成10年度)	●平和コンサート 河島英五 市制50周年記念事業 河島英五さんのコンサートや八尾市合唱協会、八尾児童合唱団による合唱。
2003 (平成15年度) 宣言20周年	●「ピースウィーク IN 八尾」を開催 ○長崎原爆資料館所蔵の資料展示 ○長崎市より被爆体験者を招いて、市内小中学校で被爆体験講話を実施。 (現在も『長崎被爆体験講話』として毎年実施しています)  長崎被爆体験講話の様子
2006 (平成18年度)	●長崎市より被爆したクスノキの苗を北亀井町公園に植樹（北亀井町3丁目） この木は、長崎市で昭和20年8月9日に被爆したクスノキの2世です。平成18年に大阪竜華都市拠点整備事業で整備された北亀井町公園に、地域の公園愛護会のみなさんの協力により平和への思いを込めて植樹。平和への願いを込めて、長崎からその「被爆クスノキ」を全国各地へ平和のメッセージとして発信しています。 【被爆クスノキのお話】 爆心地から南東へ 800 メートルのところにあった山王神社のクスノキは、真っ黒に焼け焦げ幹には大きな裂け目ができました。「放射能を受けた土地に、今後 70 年間は草木が生えない」とまで言われていましたが、みごとに新芽を吹き出し、終戦後、懸命に生きる人々に希望を与えてくれました。  【平成23年7月撮影】
2009 (平成21年度)	●平和講演会 東ちづる（8月19日） テーマ：「泣いて笑ってボランティア珍道中」～ドイツ平和村より～ 平成21年度 八尾市 平和講演会 未来へのきずな びーす あんど びーす テーマ「泣いて笑ってボランティア珍道中」 ～ドイツ平和村より～ 講師 東ちづるさん(女優)  講演やパネル展示を通して、戦争で傷ついた子どもたちを受け入れ、治療・リハビリを施したあと、母国へ帰すボランティア活動をするドイツ国際平和村の子どもたちの現状を紹介し、戦争の悲惨さや平和の尊さを訴えました。 曙川中学校と志紀中学校がドイツ国際平和村の支援活動に取り組んでいたことから、生徒会の支援活動についても紹介しました。

2010 (平成 22 年度)	● 平和市長会議に加盟（5 月 1 日） 国際的な核兵器廃絶に向けた期待が高まる中、核兵器のない平和な世界の実現をめざし、他都市と連携した取り組みを進めていくため、平和市長会議※に加盟。 (※平成 25 年 8 月平和市長会議から平和首長会議に名称変更) ● 市内巡回ミニミニ原爆展を開催（市役所・出張所等 12 ヶ所） 日本非核宣言自治体協議会が全国に呼びかけている「ミニミニ原爆展全都市開催キャンペーン」の趣旨に賛同し、広島や長崎に原爆が投下された当時の市街地の様子などを写真ポスターで展示 現在も「広島・長崎原爆展」として実施しています。 ● 平和のつどい 田上富久長崎市長 講演会（2 月 3 日） テーマ：「未来を生きる子どもたちのために～核なき世界へ～」 田上市長は「核兵器をなくすという人類の希望を実現したい。八尾市でも市民の力で平和をつくる取り組みと一緒に進めてほしいと思います。」と参加者らに訴えました。
2012 (平成 24 年度)	● 平和のつどい 山田美緒さん(サクリスト) 講演会（8 月 11 日） テーマ：「自転車は世界をつなぐ」 山田さんは、日本をはじめ世界各国を自転車で走ったときのエピソードを紹介し、「自転車は国籍や文化や言葉などいろんな違いを超えて人をつなぐ力がある。小さなつながりがどんどん広がって世界が平和になってほしい。」と参加者に伝えました。
2013 (平成 25 年度) 宣言 30 周年	● 平和のつどい 渡部陽一さん 講演会（8 月 9 日） テーマ：「世界からのメッセージ～希望のある明日のために～」 渡部さんが、取材で見えてきた人間が持つ愛の深さ、命の大切さ、生きることの素晴らしさなど、普段ニュースで見ている戦場とは異なる一面を実際の写真とともに伝えました。 ● 宣言 30 周年記念誌「戦争の記憶 伝えたい平和の大切さ」発行（3 月） 八尾であった戦争について知り、身近なところから平和の大切さについてあらためて考えてもらうために発行。



2014 (平成26年度)	●八尾市 戦争遺跡めぐり（12月6日） 八尾市非核平和都市宣言 30 周年記念誌を活用し、八尾市内に残る戦争遺跡を訪ね、当時の様子を戦争体験者の体験談とともに紹介いたします。八尾市内に残る戦争遺跡等を訪れ、八尾市内にあった戦争を知ることで、戦争の悲惨さや平和の大切さについて考える機会としました。 【参加者数】 23 名 【めぐった主な戦争遺跡】 大正飛行場の水壕、第 11 飛行師団司令部跡（現 志紀町西公園）、旧戦闘指揮所（現 陸上自衛隊八尾駐屯地広報展示室）  【旧戦闘指揮所】
2015 (平成27年度)	●平和のつどい 講演会・コンサート（8月21日） 講演会 中演 慶子さん テーマ：被爆体験伝承者による講話 「語り継ぐ被爆者の思い」 当時 17 歳で被爆された女性の被爆前の日常生活から、被爆当時やその後の体験について、当時の悲惨な状況そのままに語られ、原爆の恐ろしさとともに、平和を守ることの大切さを伝えていただきました。 二胡コンサート 二胡奏者：姜 暁艶（ジャン ショウイェン）さん 二胡の響きにのせて、命の尊さや平和への願いを届けました。ご自身が中国から日本に来たときに文化の違いなどから苦労された話などもあり、国境を越えて言葉を越えて交流ができる平和な世界になってほしいと訴えました。 
	●八尾市 戦争遺跡めぐり（11月15日） 【参加者数】 19 名 【めぐった主な戦争遺跡】 建物疎開（現 八尾市本町2～5丁目）、掩体壕、第 11 飛行師団司令部跡・境界標（現 志紀町西公園）  【第 11 飛行師団司令部作戦室（1968 年頃）】

2016 (平成 28 年度)	●八尾市 戦争遺跡めぐり（11月20日） 【参加者数】 8 名 【めぐった主な戦争遺跡】 第 11 飛行師団司令部跡・境界標（現 志紀町西公園）、旧戦闘指揮所（現 陸上自衛隊八尾駐屯地広報展示室）、掩体壕、予備滑走路（府道八尾枚方線） 【垣内に残る掩体壕】
	●平和のつどい バイマーヤンジンさんコンサート（2月10日） 日本でただ一人のチベット人歌手として、チベットの文化や音楽を伝える活動されているバイマーヤンジンさん。 「こころのコンサート」と題し、チベットの歌声にのせて平和の大切さを伝えました。
2017 (平成 29 年度)	●【日本非核宣言自治体協議会主催】「親子記者事業」に八尾市から選出 【親子記者事業とは】 日本非核宣言自治体協議会に加盟する全国の自治体の小学生とその保護者が、被爆地長崎において被爆の実相や平和に取り組む人等を取材し、新聞を作成する事業です。作成したおやこ新聞は、全国の会員自治体に配布して、被爆の実相や平和の尊さを発信します。 今回のメインテーマ：「被爆 72 周年 平和のバトンを長崎から次の世代へ」 全国応募数：177 組より、18 組 36 名が抽選で選定。平成 29 年 8 月 8 日（火）から 11 日（金）までの 4 日間長崎の平和継承活動を取材しました。 【八尾市立美園小学校 4 年生 出向井 沙雪（でむかい さゆき）さん親子が取材！】 八尾市の戦争遺跡や戦争体験を聞き取り、長崎で原爆に関する取材活動をしました。 出向井さん親子は、自身の被爆体験を語り継いでおられる語り部の方や、活水（かつすい）高校平和学習部の取材をされ、おやこ記者新聞「ナガサキピース・タイムズ」に掲載されました。また、8 月 9 日に長崎市にて実施された「平和祈念式典」にも出席されました。

	●八尾市 戦争遺跡めぐり（2月18日） 【参加者数】 9 名 【めぐった主な戦争遺跡】 第 11 飛行師団司令部跡・境界標（現 志紀町西公園）、掩体壕、予備滑走路（府道八尾枚方線）、大阪陸軍航空廠  格納庫の基礎部分  格納庫の模式図
2018 (平成 30 年度)	●八尾市 戦争遺跡めぐり（11月25日） 【参加者数】 14 名 【めぐった主な戦争遺跡】 第 11 飛行師団司令部跡・境界標（現 志紀町西公園）、旧戦闘指揮所（現 陸上自衛隊八尾駐屯地広報展示室）、掩体壕、予備滑走路（府道八尾枚方線）、建物疎開（現 八尾市本町 2 ～ 5 丁目）  【旧戦闘指揮所（現陸上自衛隊八尾駐屯地広報展示室）】
2019 (令和元年度)	●【日本非核宣言自治体協議会主催】「親子記者事業」に八尾市から選出 メインテーマ：「今ここ長崎から、わたしたちが紡ぐ令和の平和」 全国応募数：188 組より抽選で、9 組 18 名が選定。令和元年 8 月 8 日（木）から 11 日（日）までの 4 日間長崎の平和継承活動取材しました。 【八尾市立大正北小学校 4 年生 小野（おの）さくらさん親子が取材！】 小野さんは、曾祖母より戦争体験を聞き取り、長崎で原爆に関する取材活動をしました。曾祖母は、「お腹いっぱい食べることはもちろん、学校に行く余裕もなかった」と語られたそうです。小野さんは、「どんなことがあっても絶対に戦争をしてはいけない、ふだんから助け合える世の中でなければいけない」という思いを持って、長崎へ向かいました。小野さん親子は、原爆資料館の見学や、被爆者から直接お話を聞きました。8 月 9 日に行われた平和記念式典にも出席をしました。  

	● 八尾市 戦争遺跡めぐり（3月15日） 【参加者数】 16名 【めぐった主な戦争遺跡】 第11飛行師団司令部跡・境界標（現 志紀町西園）、旧戦闘指揮所（現 陸上自衛隊八尾駐屯地広報展示室）、掩体壕、大正飛行場の水壕  大正飛行場の周囲の水壕（国土地理院 1948年 米軍撮影の空中写真） ①～⑧は、次頁①～⑧地点 —：残っている水壕部分 ---：埋められて暗渠になった部分 -：現在の八尾空港の敷地	公 広
2022 (令和4年度)	● 八尾市 戦争遺跡めぐり（6月18日） 【参加者数】 9名 【めぐった主な戦争遺跡】 第11飛行師団司令部跡・境界標（現 志紀町西公園）、旧戦闘指揮所（現 陸上自衛隊八尾駐屯地広報展示室）、軍需工場跡、旧正門道路の見学  第11飛行師団司令部施設配置図	
● 【日本非核宣言自治体協議会主催】「親子記者事業」に八尾市から選出 メインテーマ：『私たちが学び考え見つける 戦争と核兵器のない世界』 全国応募数：92組より抽選で、9組18名が選定。令和4年8月8日（月）から11日（木）までの4日間長崎の平和継承活動取材しました。 【東大阪市立若江小学校の5年生 白山 穂波（しろやま ほなみ）さん親子が取材！（八尾市在住）】 白山さんは、八尾市主催の「戦争遺跡めぐりウォーク」に参加し、長崎で原爆に関する取材活動をしました。白山さん親子は、原爆資料館の見学や、被爆者から直接お話を聞きました。8月9日に行われた平和記念式典にも出席をしました。白山穂波さんは8月9日がお誕生日であったことから、深い縁を感じたそうです。取材中も、長崎の人たちの優しさに触れ、平和の大切さを新ためて実感したと感想を述べられました。 		

2023 (令和5年度) 宣言 40 周年	●宣言 40 周年祈念事業 平和のつどい 被爆ピアノ 講演会・コンサート（8月22日） 講演会 矢川 光則（やがわ みつのり）さん（被爆ピアノ管理所有者・調律師） 矢川さん自身も被爆2世であり、自身や家族の経験、被爆ピアノが矢川さんの手元に來た経緯などを話され、平和の尊さを訴えられました。 ピアノ演奏会 山形 昂輝（やまがた こうき）さん 全6曲演奏。1曲演奏するごとに、曲が奏でる悲しみや平和への祈りを話されていました。 披露される見事な演奏に、こどもから高齢者まで誰もが聞き入っていました。 

八尾市は、市民の皆様とともに、平和な社会の実現に向けて
今後も取り組みを行っていきます。